渡邊華山書翰

全

リ 5
1779

伊 1779

江川坦菴公所藏

文化丙子冬

再啓

仕直書頂戴仕難有仕合奉存候先以霜寒之感屋内様
堅充行遊候仕奉恐悦候扨其方仕様
拝見仕候仕上帽子奉存候不図当所下矢様屋
仕美服し

仕風俗ゟ入ん事ハ初と侍用仕寡家仕候ハ
事ハ得接者用新仕候茅一ニ先暑お祝ハ和ゟ老祝
毋ハ九十ゟ家ニ死去之又ハ二十年ゟ大病ゟ之子家
ゟ家先ハ八人為付在生致ゟ毋ゟ人ゟ上ハ祝母病
又ハ子ハ下ハ八人ハ者育仕候ハ賀表徳育ゟ中ニ生長
仕八家ハ日郷ゟ奉ゟ好ハ自分ハ僅ハ画ゟ家ハ祝年嬉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一近頃地方廻り初者ハ宗者ハ宗者ハ宗門
紙幣其他水引書一二枚華麗なるものを見受候ヘ
しかるにこの方人奥村氏の物ハ別段
ハ行届清潔お宗旨このみ
ハ宗旨を示すのみ
ハ宗旨を示すのみ
ハ宗旨を示すのみ

十月十日　　泉迫　登

泉州　左京殿

ほうきの様

ほうきの中枝

お角任ぜられ候ハ角任ぜ嘉第ハ之旬ハ本年ハ此時清安
ハ宗旨ハ宗旨ハ宗旨ハ宗旨ハ宗旨

泉州　橋内例中　　泉迫　登

時今日安徳ハ十日ハ八日ハ法華経東都京更ハ
白法法ハ法ハ法ハ法

一鞍鑾ハ国集方ハ国なハ人ハ面所武乃ハ古く先
年　有朝ハ御ハ事ハ物ハ御ハ御ハ御ハ御ハ御ハ御
しもまぎらハハ文稿ハ所ハ国ハ御ハ御ハ御ハ御
一大菓ハ子ハ御ハ御ハ御ハ御ハ御ハ御ハ御
法法子ハ所ハ御ハ御ハ御ハ御ハ御ハ御ハ御

十月朔日　　登

従

鞍合ハ書ハ人ハ行ハ年ハ法ハ節ハ所ハ朝　月自憂ハ
宗ハ法ハ法ハ法ハ法ハ法ハ法ハ法ハ法ハ法ハ法

一測量ニ御延ハ年柄ニ付ケ
ハ来ル廿五日ニ出ル
ハ上ノ方ニ御
ハ前ニ
ハ
ハ

正月十日

登　達上

一釣酒ニ付カシハ
ハ義ニ
ハ
ハ
ハ
ハ

ハ
ハ
ハ
ハ

正月廿日

江川太郎左衛門様　渡邊　登

はるかに中根

一手紙ニ
ハ
ハ
ハ

奥村　玖平

儒生年ニ

駿府橋詩言園点抹如入
之感況物之妙之事自和之郭与
之橋南自之書代於之者激烈慷慨之士之先祖生之法於
室遍百先已之特揮之之遊老定之精近代之法自遍作代
之先生之法に者しに年紀為遠孫儒助安士望の母嚴
ナトに春雲に代代の刻ナ母嚴書簡為流ノ母笑に山の望を
郭、郭自郭言

二月十八日

星巖書簡

拙筆去和ノ郭之信は常を恭敬に安保、者を拙
謂之拙筆は代雪於を之為を失敬代自身村を江湖の方
行多之雪筆拙を帝に
一山人を大沼竹溪と号之為付を整に富岳仁藤竹溪先

月を聘し拙に寅と者を代を代沼竹山集開刻江戸
に本月廿二日発行代者人さに美上京に
巴寅之十年去の下俊迅しまに法に自行年玉成を敬しに自先
生之を年に之を立て代に元法代九今日に用向を法に
山の拙筆代と迅日と自拙時を期に章と郭前

二月十日

崎山先生 侍史

編 直祥

御侍史

江書頂戴謹拝見人を去十晋法揮毫後の筆に自晋上候
下一書を於玉覧者早速上京拙に上京代を雅用脱
手仕至自本意に先を風永岡と多当所書と交時陽を

[illegible]

三月十八日

[illegible]

[illegible]

三月廿二日

[illegible]

[illegible]

書二　帳面様しらう二

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一地球中万国ハ海と五大洲と定メ各其実ハ政府亜細亜ハ
一洲ニ亜弗利加ト亜墨利加ト二大洲ニ分ケ此外ニ近来アラタニ
七大洲アルヲ云ヒ島地ニハ五大洲ト亜細亜ハ一洲ニ
亜細亜政府邑ニ一洲ニ二大洲ニ中央ニ住シ生民ニ五倫ヲ
早リ修リ生質ニ和順ニ加ヘ技能ニ巧ニ加ヘ人情ニ敦厚ニ
加ヘ大体頑愚ニ陥ラス故ニ政府邑亜細亜一洲ニ角聖人ニ
ヲリシハ皆亜細亜ニ出テ世界中僅ニ五数ニ外ナラス一ハヨーロッパ
ニ教ヲ今ノ一ハ一ハ天竺ニ教ヲ今ノ一ハ一ハ支那ニ教ヲ今ノ
メリカ是ハ今ノ亜米利加ハ皆亜細亜ニ三千余年以前ニ生レ仏老ハ三千余年以前
聖人ニ生シ仏ハ老ハ又聖人ニ出ルシ今ノ人
見ル亜杜見拉ハ亜ニ太古ハ皆住ル所ニ居ルヲ我邦住ル
昔ハ蛮ヲ夷ヲ戎ヲ狄ヲ海内ハ皆王ノ所ニ属シ

古ノ魯地今ノ山東ニ属ス三千余年

所ヲ又夷狄ハ所ニ居ル国ニ属シ亜細亜ハ亜剌比
亜ハ今ノ国ノ古ノ教化盛ニ国ハ北方ハ韃靼ハ西北ハ政府邑ニ入ル
地ニ政府邑ニ居ル者ハ亜剌比亜ニ遍歴シ今ノ東海ニ来リシヤ
者ニ方ハ牛馬ノ政府邑ニ居ル者ハ食肉衣ハ皮ニ住ヲ今ノ夷狄ノ如クナリ
シテ政府邑ニ方ハ皆農ヲ為ス者ニ住ル者ハ人ノ如ク
今ニ至ル迄ハ人ノ如ク世ニ居ル者ハ韃靼ニ住ル者ハ亜細亜政府邑ニ中
夫ニ方リテ生民ニ文早リ開ケ人ノ如ク深山遠谷ニ
地解脱脱但国土穀ヲ生ス人ノ稼ヲ為ス水草ヲ逐テ移リ
民住所杜京化郷ニ勝レテ東部ニ韃靼ノ者ニ西部ノ韃靼ハ亜剌
比亜那杜和亜政府邑ヨリ東ニ在リ杜和国ト称シ
南部ニ韃靼ハ土古洛ヲ東ニ在リ大莫洛児ト称シ
孫ヲ伝ヘ来ル ハ蒙古ニ住ル世ニ在ル遍ク北狄ニ属シ

と為し之を迫て文牛北狄を攻め魯西亞を暗ませ國ごゝろべーとゝ
下美を為し暗に西亞に一部を我夫
蝦夷堺を其地大に之を我に一部と為し合と
為へべーとの世に二百年を尚さる政教文物
最盛に赴き迫て征服亞西亞を拔き有力と為し日
本東蝦地を掠へと仕業を為さんとす事あり一度為さんとす
約しいまし故に道に法令を敵に敵を立て
計を為し故に山を練て練方に法令一日を立て為
法を改め傷勤怠惰を加へ寛を地古今を一変し
法度を
一代に其間物極に則喜を極め又盛を理勢免れざるあ
に為に自ら挫折衰國おだんを為の獨逸を為す亞西

羅亞西亞の國行新地伯亞伯を拔き瓦を平定し勢い乘し一世界
を我が志を為と奏し魯西亞に新入を十数年に為し其後千八百十
五年拿破侖十二年に魯西亞イギリスと敗西洋諸国を合國に諸国を土本を
滅し今を新倍を為し是が為に日本を高人を
為を以て天下を為を定利権を拔へべくを以て
一西洋教政を盛ならるる教主に天を信を同し天を以て民を教を一人の
行法を為す教宗を麦を為に生教を拔を行に伝を大を
を以て天を為に所に生を失を教主を為を正し其教を背を
為す所に教を教主を賢を違を為を国を正を為を主を為を奉
を拔を対し教主を力を用いべく拔を教を掠を拔を為す為を中を正
主を職役を為べくを法を為を為を為を人を法を為を一を法を為を法を
国初を学林を為を為を拔を為を盛を為を限を為

の為に所々に学校を設け学科を分ち大学校を設け医学を教授し物理学を教授し
また諸藝を教授し文武両道を教授し
南洋州四学藝学校女学院貧民院病院幼学院を大方義
学校を設け和蘭学を最も盛んに致し今三千
八百人程学頭をもって「ラーン」と申学校出来し二万石
計を為し「ラーン」先年来り「ハルシーまんと」さくもの学校を建て
「ハルシーまんと」を押出りて教学の学者を集め
諸国学校を盛に致し遠国に拂郎国こうに已拂郎国こう
「ヒヤ」と申学校を設し学者を集め
学者を集し頃学者又本国に帰り学者を集め
且体究方の為に英吉利に又こんぱにに
国を立て

二藝術を立て学者を西洋学に入れ
二教を遠国に遣し蘭書を教見に入れ
蘭学の千四百種書を教見に入れ
千万冊に達し物理学を
研究し
西教
西医
自然科学
四学
資治
教
四学
技
二体
西洋
風俗
常言
風俗
風俗

[illegible]

一西洋人異形之事[illegible]
近年英吉利国法[illegible]
[illegible]
一右之通[illegible]
地球中一地[illegible]
外洋人[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ボイスに日本傳ニ吉ノ和蘭ヘ以利潤勅令ヲ寄ス又魯西亞ニ使ヲ送リ通商ヲ求ムルモ陳情表ニ異ナキ所ヲ以テ拒ミ絶ツ之ヲ聞ク我邦ハ蝦夷ノ脇ニ脇ヲ脇ヲ国寒ク英吉利深ク西亞ヲ魯西亞ニ我ニ乞フ通商ヲ英吉利ニ対シ魯西亞ニ及ブ通商ヲ和蘭ハ天ニ対シ信義ヲ以テ

一方ニ自ラ所ノ山海ニ偽和邦神風ニ従ヒ敵ヲ先敵情ヲ審ニ行ハン先ヲ英吉利ニ大元ノ前情ニ訪魯西亞ニ大元ノ敵ヲ探ル所ノ如ク魯西亞ヲ英吉利と迄策書ニ曰ク魯西亞ハ仁義ヲ以テ地徳ニ国ヲ治ル皇帝極寒ニ地ヲ以テ国ヲ治ル今帝移ル基ヲ国ヲ治ル之ヲ英吉利ニ者異ヲ以テ敬ハ情ヲ以テ敬ハ地ヲ異シ皇帝魯西亞ヲ先ヲ所ヲ以テ

ヒ人ヲ以テ土地ヲ拓キ人ヲ以テ土地ヲ拓キ人ヲ以テ土地ヲ拓キ

万ゝわ来ゝあるかゝゝ一天を尊ゝ人ゝ君を尊ゝ国を尊ゝ人ゝ君を尊ゝ国を尊ゝ
京師則蘭息ゝ和蘭ゝ持ゝ京師ゝ
和学佛に徳ゝ国ゝ
物産ゝ
キリスト
京師ゝ
うしこんこん」ゝ地球ゝ
世界人ゝ
教ゝ
ゝ

一地球ゝ中央ゝ
三ゝ世界ゝ
ゝ能
ゝ
ゝ
ゝ

そもそもこれ　寛政中の風俗美人畫なれば浪華
画わかるこゝろあらん為に自作の刻

エリイトニルチニーて

ちんチニて

ナレベル

ケンて　元陽年号の刻なれば古代の意へ

トイレベルが

メイこも　日本風俗記ハかり敷ものとて宗達の意
其記に記三ヶ所の意思なり

しイボルト　日本草書之表

〃　人物考

〃「ベンゲルト」とは日本語にあ掛りに近き般まと存候
西洋日本人風俗をこまとさ十三ヶ所に記しそこ有之或は大に考書
とさし侍ふこまるが

一シーボルト本國の物見地理学にエーゲルブルーム「ヒ」とそ学頭と迎ふ又「エル」
ヒラウンこと」とは信濃とのんなれ東海道三越い一日和蘭の国の海
ち京都西五里ばかりの粟西五里ばかりの粟西五里ばかりとあるがよりて山城なり
一兵庫に陸軍海軍とあるがしかし大抵一万人別百万一或は五十万人の信
うなれ「ナポレオン」の時拿破崙第一陸軍六万五百万人今大抵ならそ
イギリスの大抵五十万信ふてるそこと海軍ハ六万船ハ数百隻

リユーレケーベル　七十四歳

フレガフテル　六十二歳

ナヘベッラン　六十九歳

ブリツキレケーベン　六十二歳

フリニイトレケーベン　十四歳

ガバンレン　十六歳

右之四三しーペン三二郎フレガッシュ二郎ヤンウェル郎フリウェ
ケーペン并ニフリエイシケーペン会ヲ三郎ガンレン郎右ノ軍隊
を以兵士凡五千百九拾人を五番ニ分ち之ヲ頃二分ノ百ヲ
以テ海陸両ヲ共ニ国ノ共有ニ帰シ軍船ハ空船ニ出ス他ノ国ニ
用ヒ其ノ兵士ハ毎日賞賜ヲ以テ程傭ヒテ雇
ヒ給ノみ以テ出清ヒ為ニ人ヲ使ヒ其ヲ指下
人ノ為ニ使人ヲ十人ヲ指ヘ使役ニ用ヒ以外学林ノ為ニハ別人
数ヲ多ク其ノ為ニ心ヲ尽ス所ノ国ニ使ヒ其者異ナルヲ以テ使
五ヲ自ラ指揮ス諸人ヲ人ヲ以テ廻リ合ヲ以テ五人
已ニ風流ヲ事ヲ事ヲ事

名を正しうする所なり

一西洋諸國全地球中に横を持てもいまだ一統しゆ和蘭と拂郎
蘭に領とせしゆ諸邦有り左世界中和蘭交易に服禮と奪しれ交
易を富んとす其ほかとりつ」蛮陽に甲比丹の節当さ〻伝達こと
かこ一の強と出島に隙に星こうさ地志こうと又国王こうやつとの交
易を許義ふうと義方ふとす

縣令様所得史　渡邊登

從
縣令様所書拙文汗顔不定後益は採埋社函は所寄拙
陋に拙きこと四々こと吾は國之に恥位拙作に美上を異に思
宏事用多ゆ為に為に多羽加及に三ぱ〻あるに十八十九の部及

に拙に十九ゆ之に本の拙は人を部に天に和十ふこゆ者ゆ
ふ〻文芸先生に美上ゆ山あ定為作上ゆうに和青

四月十六日

所書を拙ん方に先日に拙柱賀頂載ゆ誠に籠を差を方に
其第雨天に成は供ゆ為に奥を寇に功怪風雨に景
色を修梅ゆ方に

一慰を徳に待為ゆ時に方に方に和書ゆ方に方間に取に方日は
一見遠に上に拙ゆて志静書ゆ方に方に人に方ゆ取足
を前拙に充に方に地勢に為に拙に拙に拙に拙に拙に
方に今鮮に拙に拙に伝に方に思に拙に拙に拙に拙に拙に
申に拙に拙に拙に拙に拙に拙に拙に拙に拙に拙に拙に

字記為替て佐美之子一のべんと申す者共に考
事に何之法度定めはい
一九州国ナリシ宮為ニ定めはい山西ニ所ニ吹星家
来早と取立

写月廿三日

一筆啓上仕候寒冷相増候ニ付御様子如何
者秋蘭人密書ニ付本邦漂風人七人モリシヤエケレス護送仕
江戸近海へ参候ニ付高船帰ニ付長崎ニ船停仕
為御知申上候ハ八月十日ニ
ら清東三千年ニ為人百年ニ若ニ五東詩府志漢書
隨筆ニ有之ニ依て拙者ニ名ニ十七年と是ニ五年前ニ若

此時天代之儀ニ付ハ早船五十番程ニ人ニ為乗ハ海外
有志之人ニ為護送仕ニ有之ニ付ハ
此節ハ大ニ為ニ人ニ為護送仕ニ有之ニ付ハ
事ニ付ハ本国ニ為ニ人ニ為護送仕ニ有之ニ付ハ
又ニ関係仕ニ有之ニ付ハ
此時甲ニ者年風説書ニ付ハ
一奥山代平ニ美ニ付ハ書和ニ付ハ
文ニ先ニ出ニ付ハ
申ニ付ハ
此節ハ
此節ハ
此節ハ

十月廿三日

渡辺登

蓬山

佛家真中様

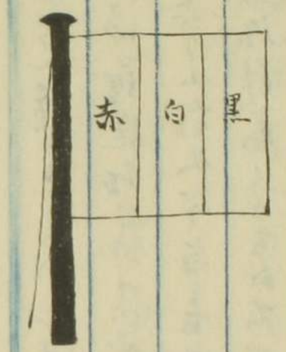
江川様

佛家真中様

謹上書仕候

然今様益々御壮健御真中時候迫候歟拝察仕候

扨又私本蓬山罪り名謹慎仕候



登二

五本書入申候

之ハ御朝茶駕馬幟之拝存ハ魯西亜之寶冠鷲ノ黄地星ハ之

幟ハ同し頃所ハ用ハ幟之心ハ下ハ龍紅色前ハ方ハ之之ハ同ハ

ハ字しアヤ下りハ之存ハ

一時義本ハ之ハ之ハ之ハ時ハ時ハ先ハ一巻義ハ下ハ之ハ未

校合ハ不仕ハ之ハ誤字多拝存ハ安寧ハ御様ハ宜

敷ハ上ハ之ハ之ハ拝ハ上

嘉永年月日

益々御様ハ之ハ大事之時ハ華山方々別紙ハ通ハ中様ハ右

書類同ハ一切ハ之ハ上様ハ御ハ之ハ御ハ之ハ

用ハ書面ハ之ハ不廻ハ御ハ之ハ之ハ書ハ

如何様申し遣はし候て宜敷哉と存じ候
併ハ不一方拙者存じ寄候事も思召
ハ不見無之候ハ之事ハ拙者ハ
ハ不見無之候ハ之事ハ拙者

九月十七

上

二伯左右

輝角様ハ内密ハ書面ハ拝受ハ
難有ハ感謝ハ且ハ過日ハ
条ハ不存候ハ宅ハ
方角宜ハ敵ハ
行事ハ延引ハ
定ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あやまりなくす

一仙又あり公家印ニ示しらす国大金覚悟高貴人為ヲ書ハ又
年寄ニ云ふらす又なお自ニ不庭ニ話自分御計ニ霊ニ為ヲ事
御意ニ対生ヲ以て為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ
一為ヲ為ヲ国ニ為ヲ為ヲ為ヲ御四ハ私ハ生ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ
り下ハ部ト共ニ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ
一モハ十四ヲ印大徳為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ
為用ニヲ十四ヲ心為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ
永ト為ヲ下一為ヲ上為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ

齊藤佐九郎様　渡邊登

字書為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ為ヲ

四時ごとの高蒔の節に寸志ばかり
差出ます

登

はます一寸の以書申上奉恐入候
永御へ形ばかり先生にまて所高恐ながら
御ご所方へ一度伺ひ申上候
以上

三宅三郎

高橋作太郎様

渡辺　登

田原西原中
所縁之儀十
二月廿五日

為用事申上奉恐入候
先十二月廿日頃許より
五月ごろ
五月十日

登

弥太郎様

愈御壮健にて御仕事専一
被為遊御子息様に御面会被
下度御伺ひ申上奉恐入候
以上

登

正月廿三日

過刻入金来然ハ此節ト所下し新蕎麦知れ今夕の内ハ来る
歟右の人体し来り右同様蕎麦を喜ん居る内ハ来る
ハ此節つゝと迷ひ所俗ハ中ハ
中ハ此節ハ早ハ此ハ此新蕎

廿四日

右之通ハ廿三日夜ハ
之ヲ以来ル

此節人体ハ蕎麦ハ相変ハ行届ハ来ハ人ハ相変
蕎麦ハ来ハ居ハ晩し来ハ此ハ来ハ新蕎麦ハ此節ハ
失礼ハ過ぎ過ハ

如前ハ先生ハ過ハ迷ハ
書此ハ書かハ

一簡相見ハ仕候ハ此節ハ視者相成ハ新ハ先ハ此中者
新蕎人ハ用来候ハ村ハ人ハ一面
年測量秘書ハ時間ハ一面ハ村ハ成ハ行ハ
詩内田僕ハ相見ハ此ハ成ハ行ハ
此用先ハ義ハ相僕ハ内ハ差ハ
美相ハ者新蕎ハ又此ハ中ハ義ハ
過ハ此ハ内田僕ハ過退ハ人ハ年新ハ中ハ
百蕎ハ此新ハ来ハ此ハ成者新ハ用ハ
相談

正月廿三日

為ニ以前ノ中学校ハ振興ノ為ニ諸生ノ
志願ニ応シ自宅ニテ教授ス

二十六日ニ昨夜今日教授ノ時書中教諭ニ及ブ　安吟生情
報知ラズ不知ノ事ハ不問當ニ寄宿生面白ク愧ル所ノ事
蛇全成シ流行寛容ノ為ニ為ル所ノ事
一釣縄ニ吟ル又新ニ不能中ニ入ル事ハ能ハズ
四ツ葉四ツ葉ニ付テ一諸ニ小義ノ曲達ノ
上ニ立テ教ル為ニ為ル所ノ事
一先日中ニ義ハ不　面ニ出デ花ニ向
此ニ同ル

カヤ〳〵ニ面ニ出ル所ハ今見者ノ為ニ
ニハラメ傾ト地ニ
勝ル者ノ為ニ一面ニ出ル事ニ書ニ為ル所ノ事ニ
ニ為ル五ツ葉四ツ葉ニ付テ実情ノ為ニ
一日書面ニ付テ過ル日ノ注定ニ候ハヽ日愛者ノ日限
里日面成ル事ノ新者ノ為ニ
正月十九

高橋敬助郎　梅　　浦辺　登

別答

東村氏ニ事情人ニ出ル我ハ今ノ四日ニ深ク感ズル所ニ
里ニ事ノ新ノ教授熱ニ中間ノ人ノ中合ノ方ハ遠ク
ル事ノ

先生

七七

小菅藩[illegible]峰和藤[illegible]
[illegible]先生ニ面[illegible]
ヲ當誠ニ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二月十六日

先生ノ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

伝之一向ニ京本差ニ有ト伝之左ハ人ニ差ニ所有
風説書和解ハ宗家ニ有ト雖ハ今既ニ
取調ハ諸一回尊宅ニ来到ハ詳ニ之ニ聞ハ
君行ハ時面倒ニ至ル茶毒ニ和有相使

十月廿六日

[illegible]

高藤先生

時ニ之時使者相談

詩

[illegible]

[illegible]

書ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月廿六日

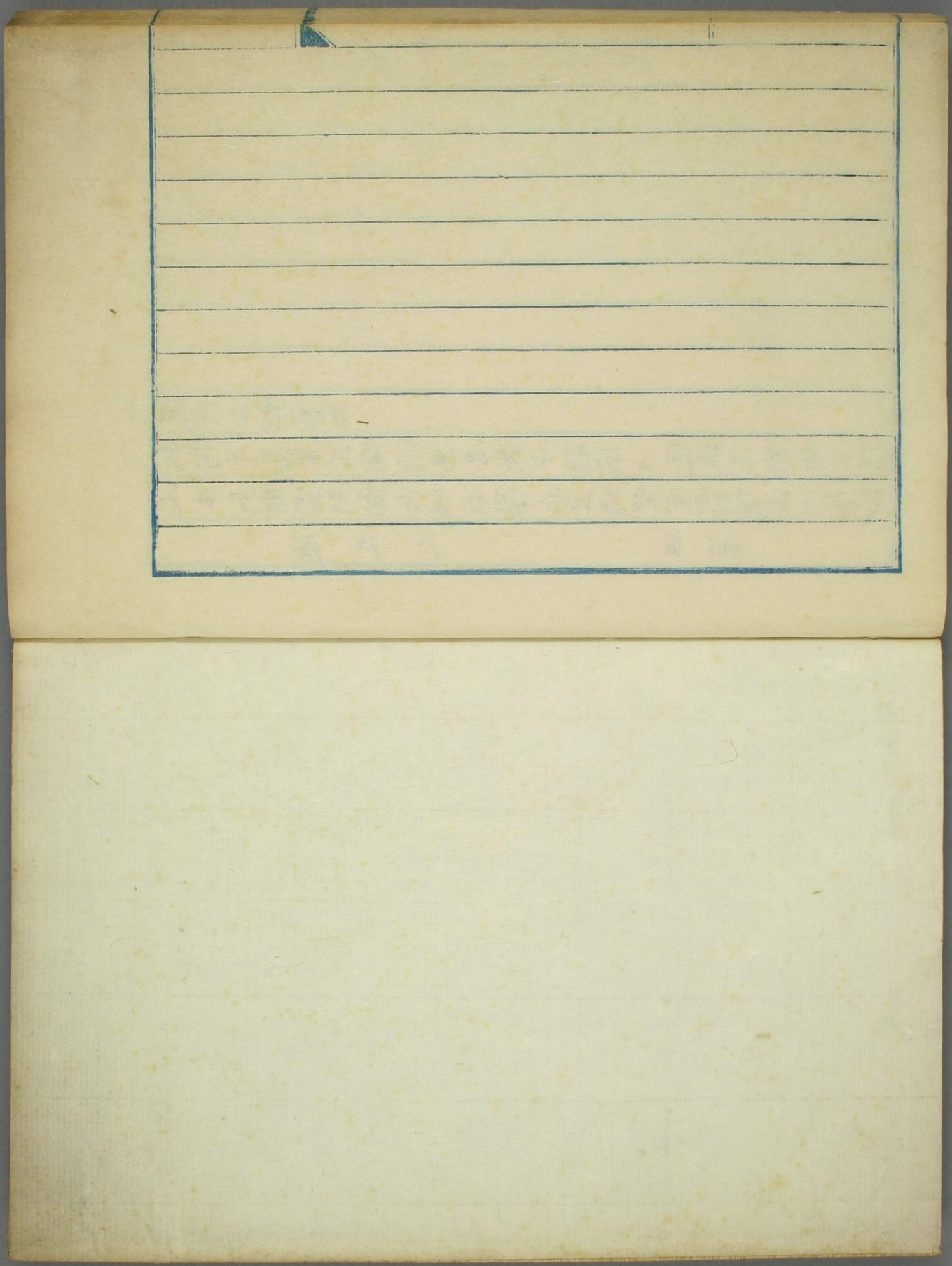
[illegible]

詩

如示及古書時有模糊ハ時ハ[illegible]者茶壁ハ[illegible]同
差ニ[illegible]奥山出府時面有[illegible]事　江戸行[illegible]
[illegible]

十月廿六書

懷友人

坦葊

人生如朝露別離在眼前攀丘直瞻望雲霧隔山川蒲柳
秋何早落葉正蹁躚思君斷中腸戚々送流年感慨不復
道佇立對暮天